



2022年9月12日放送

「第72回日本皮膚科学会中部支部学術大会 ①

大会を終えて」

奈良県立医科大学 皮膚科
教授 浅田 秀夫

学会テーマ「Be a dermatologist」

この度、2021年11月20日、21日の2日間にわたり、第72回日本皮膚科学会中部支部学術大会を開催させていただきました。当大学の主催は2005年に宮川幸子名誉教授が第56回学術大会を主催されて以来16年ぶりで、このような機会を与えていただきました日本皮膚科学会会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

COVID-19の感染状況がまだまだ予断を許さない状況であったため、感染対策を徹底した上で、現地およびwebでのハイブリッド形式で開催いたしました。

会場は奈良市にある奈良県コンベンションセンターを使用いたしましたが、2020年4月にオープンしたばかりのこのコンベンションセンターは、正倉院の校倉（あぜくら）造りをイメージした外観、内装に吉野スギや手すき和紙が使われるなど、地元奈良の素材を生かした空間が広がっており、参加された先生方に楽しんでいただけたかと思います。また、京都駅や大阪難波駅から電車で約40分、伊丹

The 72nd Annual Meeting of the Central Division of JDA

**第72回 日本皮膚科学会
中部支部学術大会**

会期 2021年11月20日(土)・21日(日) 会長 浅田 秀夫
会場 奈良県コンベンションセンター 奈良県立医科大学
皮膚科学教室
奈良県奈良市三条大路一丁目691-1

BE A DERMATOLOGIST

主催部長 新熊 悟 (奈良県立医科大学皮膚科学教室) 協賛機関: 公益社団法人日本皮膚科学会内
部会 学術大会チーム
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-4
TEL: 03-3811-5070 FAX: 03-3812-0790

〒634-8522 奈良県橿原市西条町2-40番地
E-mail: cjda72@dermatol.or.jp URL: https://cjda72.jp/

空港からバスで約 60 分と、全国からのアクセスが便利だけでなく、奈良公園と平城宮跡の間に位置しています。そのため、コンベンションセンターを中心に東大寺、春日大社、奈良公園、平城宮跡、薬師寺、唐招提寺など多くの観光地があり、足を運んでいただいた先生も多かったのではないのでしょうか。

さて、本学会のテーマは、「Be a dermatologist」とさせていただきます。

近年、専攻医の地域偏在や診療科の偏在などの問題に対処すべく、日本専門医機構が中心となってシーリング制度を導入するなど、皮膚科医を含む臨床医を取り巻く環境は著しく変容してきております。このような中、皮膚科医の責務が何であるのかを今一度考えたとき、我々皮膚科医はどのような状況におかれても、皮膚科学に継続して真摯に取り組むことが重要なのではないかと思ひ至りました。皮膚科専攻医の先生方はもちろん、すでに専門医を取得され、皮膚科診療の第一線で活躍されている先生方も含め、改めて皮膚科学に真摯に取り組む機会になるような大会にしたい、そのような気持ちを込め、今回の学術大会のテーマを「Be a dermatologist」といたしました。

特別講演

本学術大会では、特別講演として高名な 3 名の先生にご登壇頂きました。

特別講演 1 では座長を大阪大学名誉教授の吉川邦彦先生にお願いし、「新型コロナと日本人の健康観」と題し、医師でありながら、小説家・推理作家でもある久坂部 羊先生にご講演を賜りました。久坂部先生は 2003 年に「廃用身」

で作家デビュー後、たくさんの小説を執筆され、中でも「破裂」、「無痛」、「神の手」はテレビドラマ化されるなど、社会的に高く評価されています。自分自身と家族が病気をわずらった時に陥りやすいダブルスタンダードな考え方、マスコミに振り回され先入観が固定化してしまった患者さんに関するお話など、大変参考になるご講演を伺うことができました。

特別講演 2 では、座長を奈良県立医科大学名誉教授の宮川幸子先生にお願いし、奈良県立医科大学・化学教室名誉教授の大崎茂芳先生に「生体繊維の不思議ーコラーゲン線維からクモの糸へー」という演題で、ご講演いただきました。クモの糸を弦に用いたヴァイオリン演奏などの演出に加え、ユーモアを交えながら科学の楽しさを聴衆に伝えてくださり、きっとたくさんの先生が研究に興味を持たれたことと思います。

特別講演

SL1 新型コロナと日本人の健康観

座長：吉川 邦彦（大阪大名誉教授）
久坂部 羊（大阪人間科学大社会福祉学部医療福祉学科）

SY2 生体繊維の不思議ーコラーゲン線維からクモの糸へー

座長：宮川 幸子（奈良県立医大名誉教授）
大崎 茂芳（奈良県立医大名誉教授）

SY3 ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV-6) が潜伏感染状態で引き起こす疾患ーうつ病ウイルス原因説ー

座長：浅田 秀夫（奈良県立医大）
近藤 一博（東京慈恵会医大ウイルス学）

そして特別講演3では、東京慈恵会医科大学・ウイルス学講座の近藤一博先生に「ヒトヘルペスウイルス6が潜伏感染状態で引き起こす疾患—うつ病ウイルス原因説—」をご講演いただきました。近藤先生はヒトヘルペスウイルス6研究の第1人者で、このウイルスのSITH-1遺伝子がうつ病の発症に関わっていることを発見された研究者として、ご存知の先生も多いと思います。COVID-19感染の後遺症としてうつ病を発症しえることが報告されつつある今、まさに旬の話題をご講演いただきました。近藤先生と私は、大学院時代に大阪大学微生物病研究所で、共にハンタウイルスというウイルスを研究した仲ですが、若いときと変わらない、ウイルスへの探究心に溢れた講演を久しぶりに拝聴し、なつかしく感じました。

シンポジウム

また、四つのシンポジウムと一つのミニシンポジウムを開催いたしました。

シンポジウム1では、「ウイルスの潜伏・持続感染と生体応答」と題しまして、私の専門分野である皮膚ウイルス学に造詣の深い3名の先生にご登壇いただきました。名古屋大学ウイルス学の木村 宏先生には、EBV関連リンパ腫、高知大学の佐野栄紀先生には、ポリオーマウイルスと皮膚疾患との関わり、神戸大学感染症センター臨床ウイルス学の森 康子先生には、ヒトヘルペスウイルス6のレセプターの発見までの道のり、そして当教室助教の西村友紀先生には、薬剤性過敏症候群の病態形成におけるヒトヘルペスウイルス6の役割について、ご講演いただきました。

シンポジウム2では「膠原病 Update」と題し、JCHO 中京病院の小寺雅也先生、金沢大学の松下貴史先生、福井大学の長谷川稔先生、そして当教室講師の宮川 史先生にご講演いただきました。

シンポジウム3では、「Be a genodermatologist」と題し、北海道大学の夏賀 健先生、大阪大学再生誘導医学協働研究所の新保敬史先生、山口大学の下村 裕先生、そして当教室准教授の新熊 悟先生に、遺伝性皮膚疾患に関する講演をいただきました。

シンポジウム 「ウイルスの潜伏・持続感染と生体応答」

座長：浅田 秀夫（奈良県立医大）
佐野 栄紀（高知大）

SY1-1 EBV 関連リンパ腫の疾患発症メカニズム
木村 宏（名古屋大ウイルス学）

SY1-2 ポリオーマウイルスと皮膚：炎症性皮膚疾患とメルケル細胞癌
佐野 栄紀（高知大）

SY1-3 ヒトヘルペスウイルス 6B 宿主受容体およびウイルス側リガンドの発見とその後の展開
森 康子（神戸大感染症センター臨床ウイルス学）

SY1-4 DIHS の病態形成における HHV-6 の役割
西村 友紀、浅田 秀夫（奈良県立医大）

シンポジウム4では、「形態から考える皮膚病変」と題しまして、東京女子医大の田中 勝先生、福本皮フ病理診断科の福本隆也先生、当教室学内講師の小川浩平先生を中心に、当教室の正嶋千夏助教、光井康博助教とともに、ダーモスコピーや皮膚エコーから推理する皮膚科学について、パネル形式で解説していただきました。普段の学会や講演会では類を見ない新しい試みでしたが、たくさんの先生にご聴講いただき、成功裡に終えることができました。

さらにミニシンポジウムでは、皮膚外科および形成外科、それぞれの視点から皮膚外科手術を考える講演を、自治医科大学の前川武雄先生と、当大学形成外科病院教授の桑原理充先生に依頼させていただきました。

また、日常診療で遭遇する疾患について改めて勉強する機会を設けたいと思い、教育講演として、薬疹、皮膚悪性腫瘍、自己炎症性疾患、自己免疫性水疱症、そして下肢切断と下肢救済に関するエキスパートの先生をお招きして、ご講演いただきました。

また、日本皮膚科学会キャリア支援委員会主催「キャリアデザイン講座」、「日本皮膚科学会専門医指導医講習会」や「中部支部企画研修講習会」、「重症薬疹診療拠点病院認定に係る講習会」も同時に開催させていただきました。

おわりに

今回の大会は、残念ながらハイブリッド開催となりましたが、500名を超える方々にご来場いただき、web参加も含めまして、合計1,300名近くの先生方にご参加いただきました。150を超える一般演題や、デジタルポスターでご発表いただきました先生方、また、遠路ご参加いただきました皆様、事務局長の新熊 悟准教授をはじめとする教室員や同門会員の先生方、そして、日本皮膚科学会大会運営部の皆様、特に関 千尋様や山田紀子様にご心より御礼申し上げます。また、ご賛助いただきました企業ならびに個人の皆様に、格別のご高配を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

シンポジウム「形態」から考える皮膚病変

座長：田中 勝（東京女子医大東医療センター）
福本 隆也（福本皮フ病理診断科）

講演1「ダーモスコピーと病理の接点」

SY4-1 田中 勝（東京女子医大東医療センター）

SY4-2 光井 康博（奈良県立医大）

SY4-3 小川 浩平（奈良県立医大）

講演2「皮膚エコーと病理の接点」

SY4-4 正嶋 千夏（奈良県立医大）

SY4-5 光井 康博（奈良県立医大）

SY4-6 小川 浩平（奈良県立医大）

